

**飯山町東坂元字秋常地区**

## 第IV章 飯山町東坂元字秋常地区試掘調査

調査対象地 丸亀市飯山町東坂元字秋常 256 番 3  
 調査期間 平成 24 年 7 月 11 日～7 月 13 日  
 調査面積 約 68 m<sup>2</sup> (調査対象地面積 約 1,857 m<sup>2</sup>)

### 1. 立地と環境

対象地は、丸亀平野北東部、大東川下流域の左岸に位置する。周辺の遺跡は、北約 300m の所に『東坂元三ノ池遺跡（集落：弥生時代中期～後期・古代・中世）』と南西約 450m の所に『東坂元秋常遺跡（集落：縄文時代・弥生時代後期・古代・中世～近世）』が存在する。これらの調査成果から、調査地周辺において大東川両岸は河岸段丘地形を呈しており、比高 1m 前後の段丘崖が形成され、氾濫原に相当する低地が展開していることがわかつている。



第11図 対象地位置図

### 2. 調査に至る経緯と調査の経過

宅地分譲建設計画に伴い、平成 24 年 4 月 12 日付で埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについての照会文書が提出された。近隣の埋蔵文化財調査事例により遺跡の分布が予想され、事前に遺跡所在の有無を確認しておくことが適当であると判断されたことから、試掘調査を実施することとした。

### 3. 調査の概要

調査は、トレンチ調査とし、対象地内に 7箇所のトレンチを設定した。大まかな掘削は重機で行い、その後人力により掘削・精査を行った。

#### 【1 トレンチ】

にぶい黄褐色細砂系の薄層が幾重にも水平堆積をしており、20~30cm 堀り下げたところで黒褐色細砂（やや粘質強い）が見られた。上層からは、土師質土器土鍋(1)や瓦器片などの中世以降の遺物が出土しており、後世の削平及び整地を受けたものと

考えられる。下層の黒褐色粘質土からは弥生土器片が出土し、弥生時代の包含層と考えられる。厚さ20cmの堆積を掘り下げるとき灰黄色砂層のベース面に達し、遺構などの掘り込みは見られなかった。この砂層からは激しく水が湧きあがった。

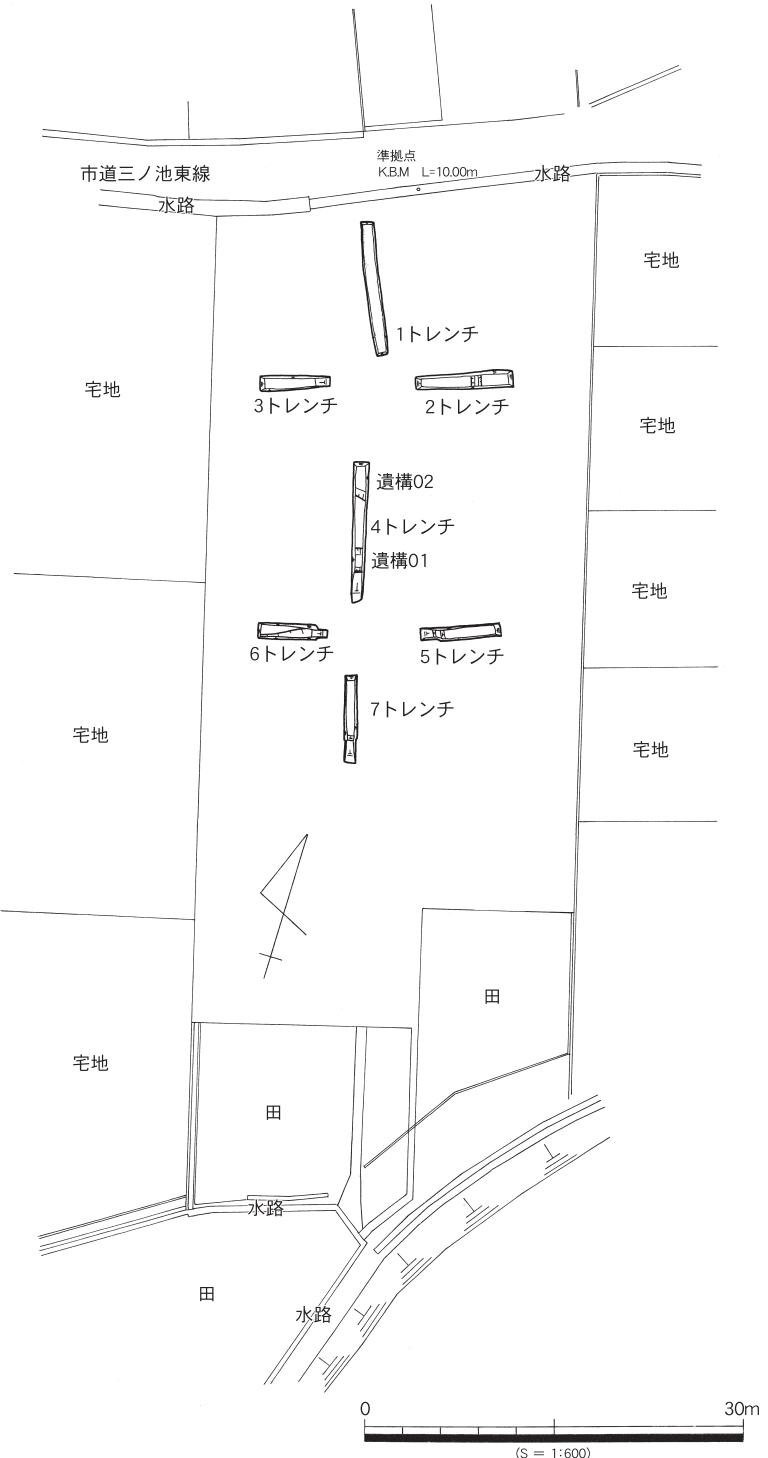
#### 【2トレンチ】

耕作土、床土を取り除くと、1トレンチと同様に、にぶい黄褐色細砂系の薄層が幾重も堆積していた。地表面から40cm下の層では、トレンチを縦断する南北方向に幅80cm、深さ20cmを呈する溝跡を検出した。埋土は、オリーブ褐色極細砂で出土遺物は無い。さらに、地表面から80cm下がったところから黒褐色粘土が存在し、さらに掘り下げると、砂層のベース面が広がった。

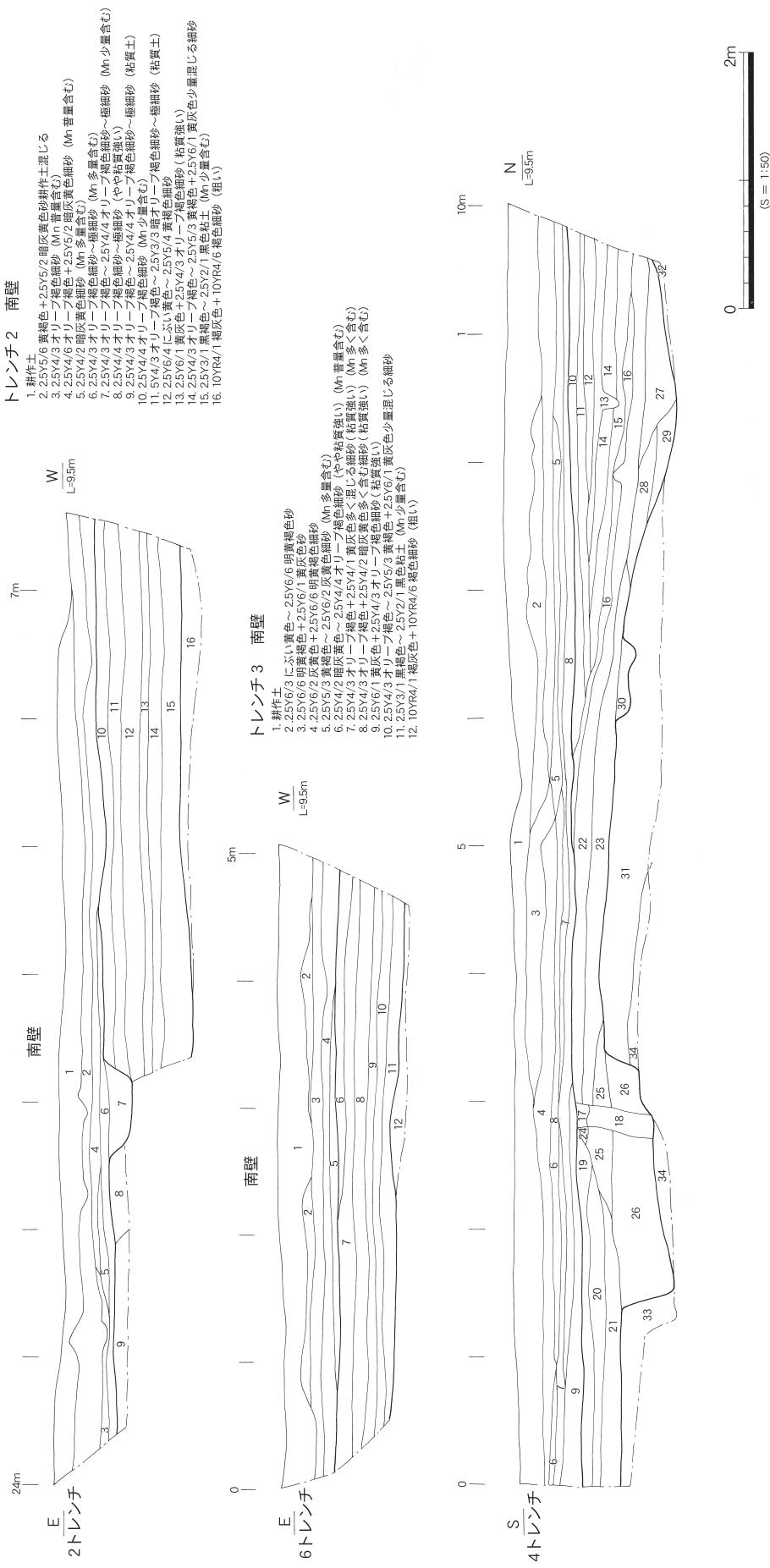
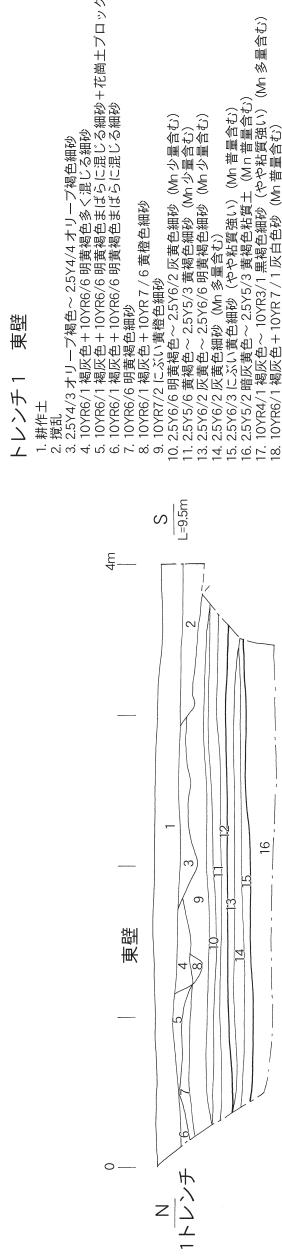
#### 【4トレンチ】

土壤堆積は今までのトレンチと同様であるが、北から約5m付近で、上層のにぶい黄褐色細砂層の立ち上がりを確認できた。この付近から北側に向かって、後世の削平及び整地が行われたものと考えられる。下層の黒褐色粘質土は、断面観察から確認できるように、この付近が一番落ち込んでいるようで、ここから弥生土器(2~5)が少量出土した。

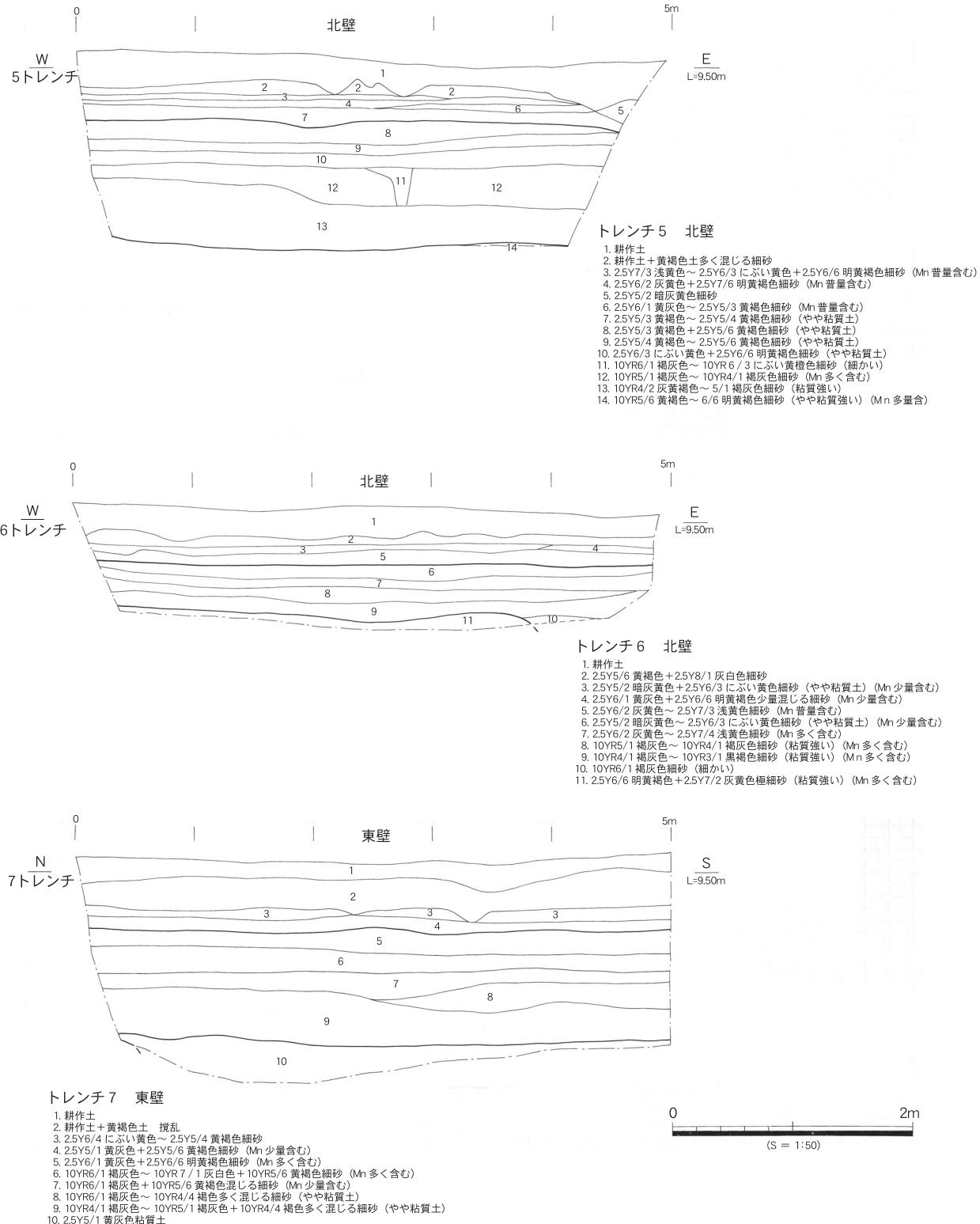
トレンチを南に進むにつれ、中世以降の薄層の堆積はほとんど見られなくなった。また、北から6.5m付近のところで、溝跡を1条検出した。幅2m、深さ25~45cmを測り、やや逆台形の断面形態をしている。埋土は、灰黄褐色砂で土師質土器の小片が出土しているが、詳細な時代については不明である。



第12図 トレンチ 配置図



第13図 1～4トレンチ 断面図



第14図 5～7トレンチ 断面図

### 【6 トレンチ】

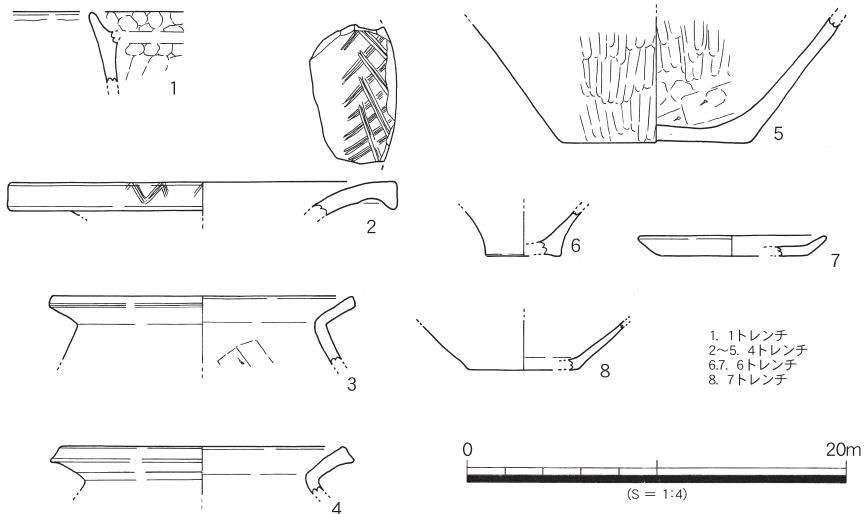
5 トレンチの西側、東西方向に長さ約 5m、幅約 1.5m のトレンチである。上層の中世以降の堆積層が、今まで 50cm 前後あったものが 30cm 前後に薄くなり、出土遺物は、弥生土器底部(6)と土師器小皿(7)である。下層では、溝の北側の肩部分と思われる落ち込みがトレンチの南西から北東に向けて検出した。南肩を確認できていないので溝跡とは断言できない。埋土は褐灰色細砂で出土遺物はない。

### 【7 トレンチ】

4 トレンチの約 6m 間隔をあけて南側に、南北方向に長さ約 5m、幅約 1m のトレンチを設定した。土壤堆積は、他のトレンチと同様に上層と下層に時代が分けられる。しかし、下層の褐灰色細砂層は 75cm もの厚さが見られ、5・6 トレンチあたりから地形が南に向けて落ちていっていることが断面観察などから伺える。ベース面に落ち込む黄灰色粘質土が確認でき、南側にある大東川の氾濫原と考えられる。出土遺物は、土師器坏(8)である。

#### 4.まとめ

調査対象地は、大東川左岸の河岸段丘地形に隣接しており、氾濫原に相当する低地が南側において展開していることがわかった。北側では、中世以降の土地改良の削平及び整地も確認できた。調査地中央で若干の溝状遺構を確認したが、河川に近く氾濫原に犯されているものと考えられ、遺構もほぼ残っておらず保護措置は不要であると考えられる。



第15図 出土遺物実測図

第2表 飯山町東坂元字秋常地区 出土遺物観察表

()は復元値

No.	出土レンチ名・遺構名	種類	器種	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	残存率	備考
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面			
1	1レンチ	土師質土器	土鍋	—	—	—	微長石・石英少量、微赤色粒子普通 含む	10YR7/3にぶい黄橙色	7.5YR7/4にぶい黄橙色	指ナデ・指頭痕多く残る	指ナデ	良好	小片	
2	4レンチ	弦生土器	壺	(20.4)	—	—	細長石・石英普通含む	10YR7/3にぶい黄橙色	7.5YR6/6橙色	口縁端部斜格子文・ナデ	ナデ	良好	口1/8	
3	4レンチ	弦生土器	壺	(16.0)	—	—	中長石・石英少量含む	7.5YR6/4にぶい盤色	5YR5/6明赤褐色	指ナデ	工具ナデ	良好	口1/8	
4	4レンチ	弦生土器	壺	(15.0)	—	—	微長石・石英少量含む	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	指ナデ	指ナデ	良好	口1/8	
5	4レンチ	弦生土器	底部	—	—	(9.8)	微長石・石英少量含む	10YR8/2灰白色(一部煤付着)	10YR8/2灰白色	ミガキ・ナデ	工具ナデのちミガキ・指ナデ指頭痕の も工員ナデ	良好	底4/8	
6	6レンチ	弦生土器	底部	—	—	(4.0)	細長石・石英普通含む	10YR3/1黒褐色	10YR3/1黒褐色	磨滅のため不明	ナデ	良好	底1/8	
7	6レンチ	土師器	小皿	(10.0)	1.0	(8.0)	微長石・石英少量含む	10YR7/4にぶい黄橙色	7.5YR6/6橙色	ナデ・底部へ切り	ナデ	良好	口1/8	
8	7レンチ	土師器	壺	—	—	(6.0)	微長石・石英少量、微赤色粒子少量 含む	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	磨滅のため不明	ナデ	良好	底1/8	

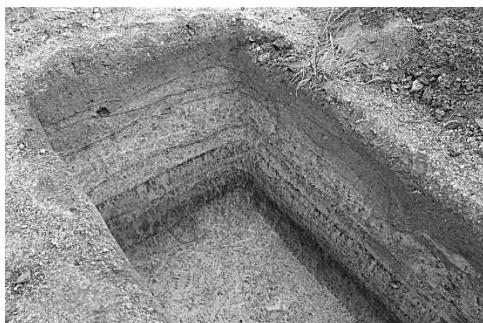
第2表 出土遺物観察表



調査前風景：北より



重機掘削状況：北西より



1トレンチ北・西壁土層：南西より



1トレンチ全景：北より



2トレンチ溝状遺構完掘状況：北より



2トレンチ南壁土層：北より



2トレンチ全景：西より



3トレンチ南・東壁土層：北西より

図版13 飯山町東坂元字秋常地区試掘調査(1)



3 トレンチ全景：東より



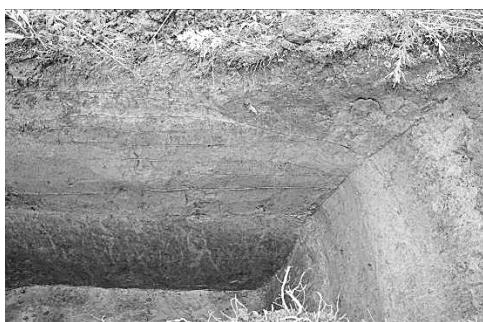
4 トレンチ東壁土層：西より



4 トレンチ溝状遺構東壁土層：北西より



4 トレンチ全景：南より



5 トレンチ北壁土層：南より



5 トレンチ全景：西より

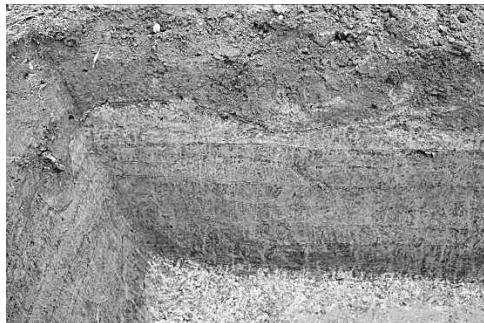


6 トレンチ溝状遺構検出状況：北東より



6 トレンチ溝状遺構検出状況：南西より

図版14 飯山町東坂元字秋常地区試掘調査(2)



6 トレンチ北壁土層：南より



6 トレンチ全景：東より



7 トレンチ東壁土層：西より



7 トレンチ全景：北より



2



2



5

図版15 飯山町東坂元字秋常地区試掘調査(3)

# 六番丁地区

## 第V章 六番丁地区試掘調査

調査対象地 丸亀市六番丁 12 番

調査期間 平成 24 年 7 月 24 日～7 月 27 日

調査面積 約 155.3 m<sup>2</sup> (調査対象地面積 約 4,110 m<sup>2</sup>)

### 1. 立地と環境

対象地は、丸亀平野やや北よりに位置しており、丸亀城の西側に隣接している。丸亀城のある亀山は、凝灰岩と花崗岩で形成されている。

丸亀城は、慶長 2 年 (1597) に生駒氏によって築かれたが、元和の一国一城令により廃城となる。生駒氏のお家騒動により改易となり、寛永 20 年 (1643) から山崎氏が再築するが、嫡主がなく絶家となり、万治元年 (1658)、京極氏が藩主となり山崎氏が行っていた城整備を継続し、万治 3 年 (1660) に丸亀城天守を完成させる。

武家屋敷地や城下町の町割りなどは、京極氏により詳細な図面が描かれており、調査対象地は、六番丁の一角にあたる。内濠西面に接しており、丸亀藩士である塩瀬氏、岩間氏の武家屋敷に相当し、北端の角には長屋手廻で井上通女が生まれたとされている。

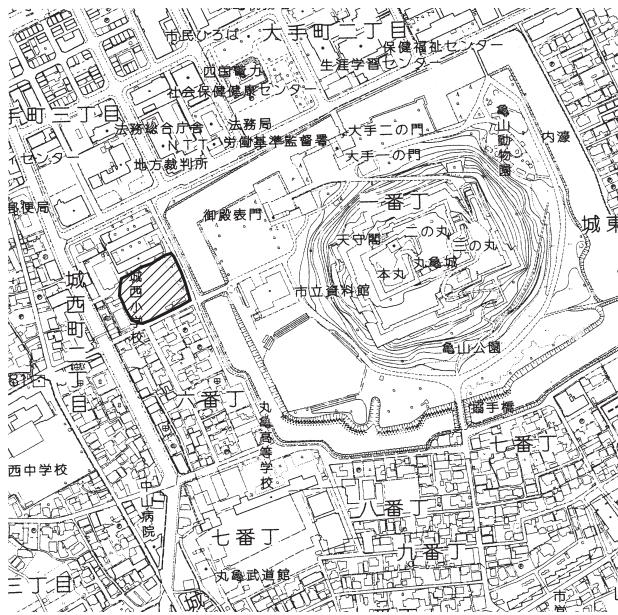
### 2. 調査の経緯と調査の経過

丸亀市立城西小学校新校舎建設に伴い、前述していたとおり、文献史料から武家屋敷地であると考えられたため、埋蔵文化財の包蔵状況を確認することが適当であると判断されたことから、試掘調査を実施することとなった。

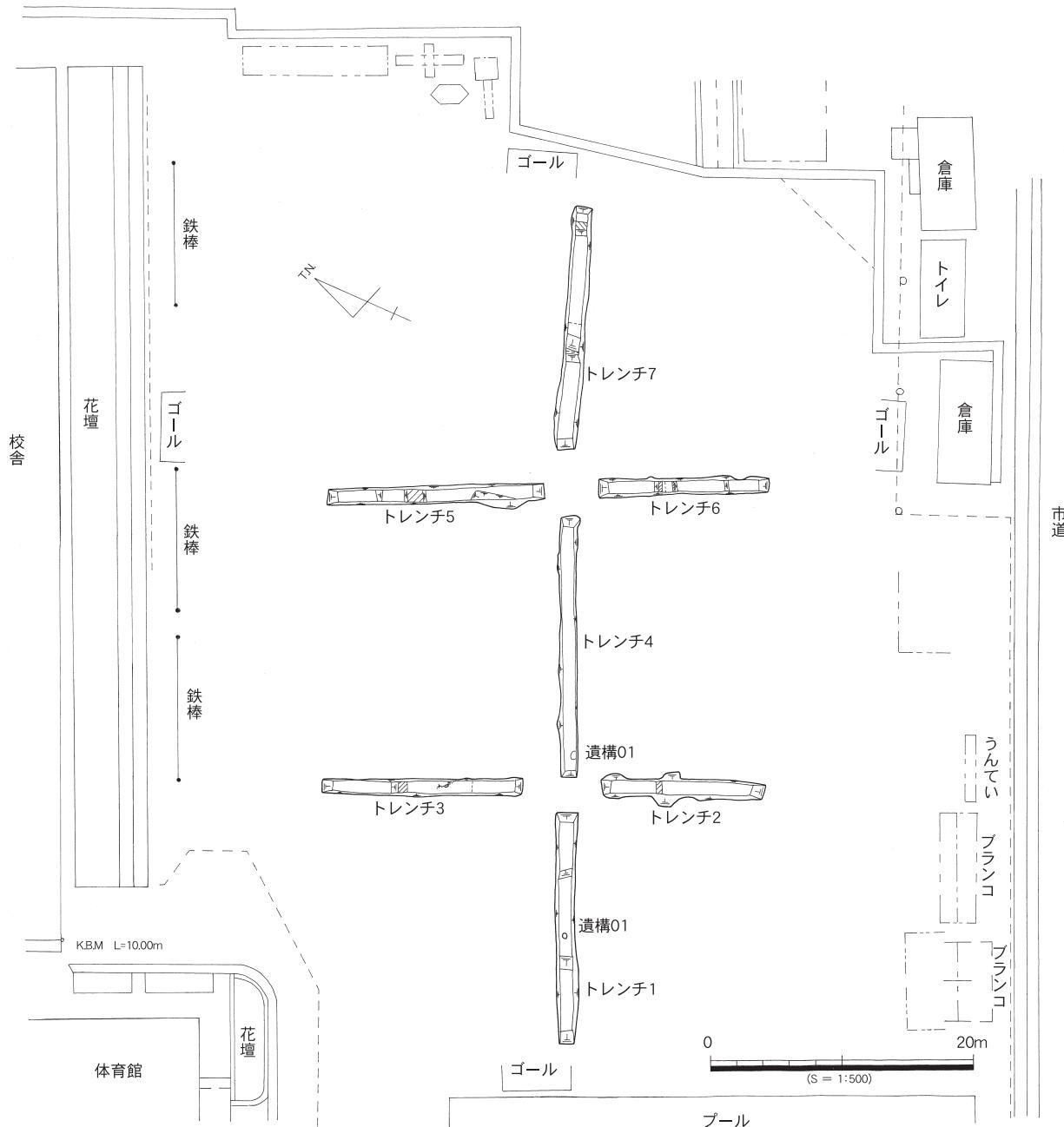
### 3. 調査の概要

調査は、小学校内の運動場に 7箇所のトレレンチを設定した。大まかな掘削は重機を行い、その後人力により掘削・精査を行った。

対象地の基本層序は、運動場の花崗土が深さ 20～30cm 全体に敷かれており、そのすぐ下から搅乱層が多く見られている。出土遺物は、コンテナ 18 箱を数え、近世、近代の土師質土器、陶磁器、瓦、貝などが出土している。



第16図 対象地位置図



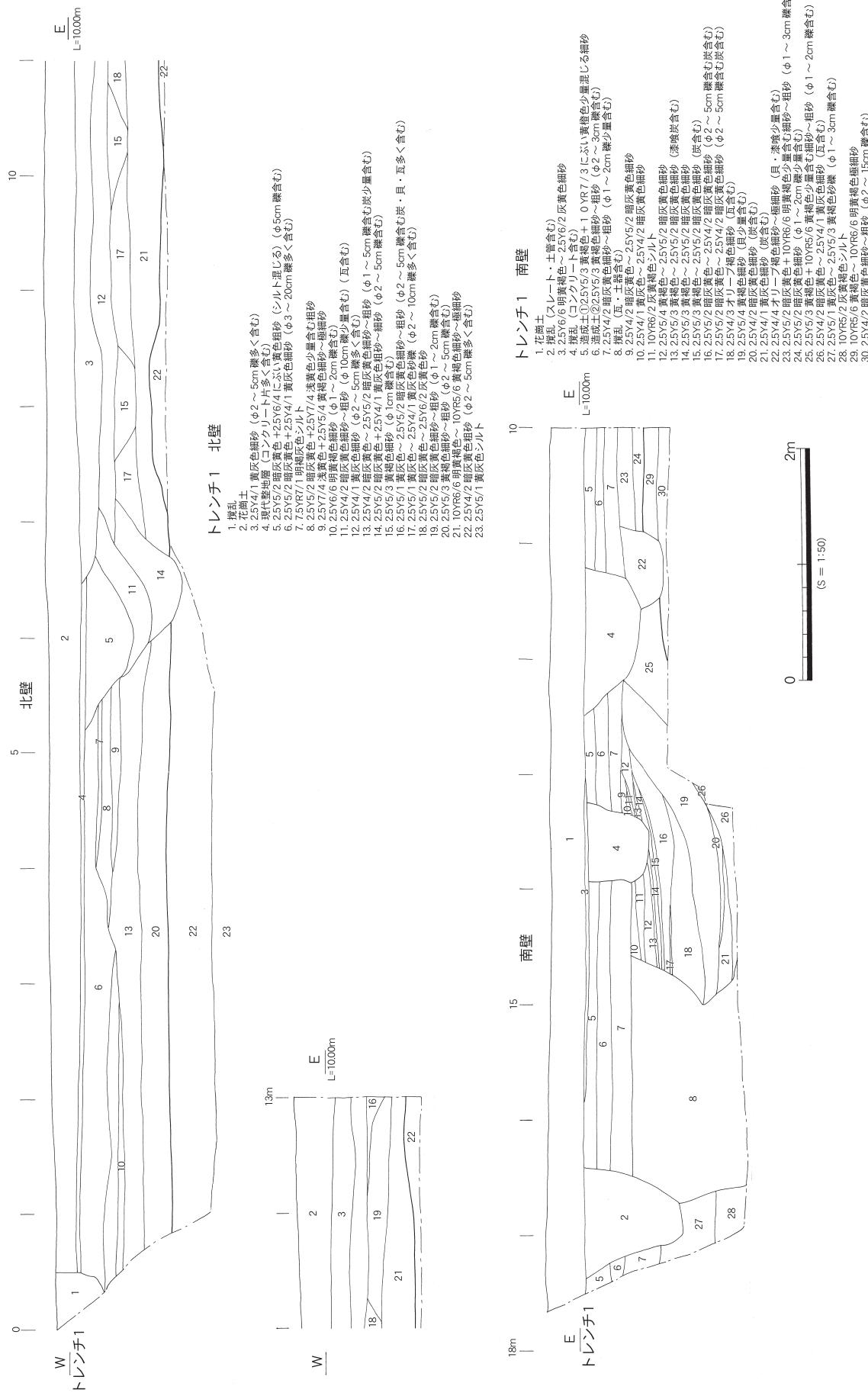
第17図 トレンチ 配置図

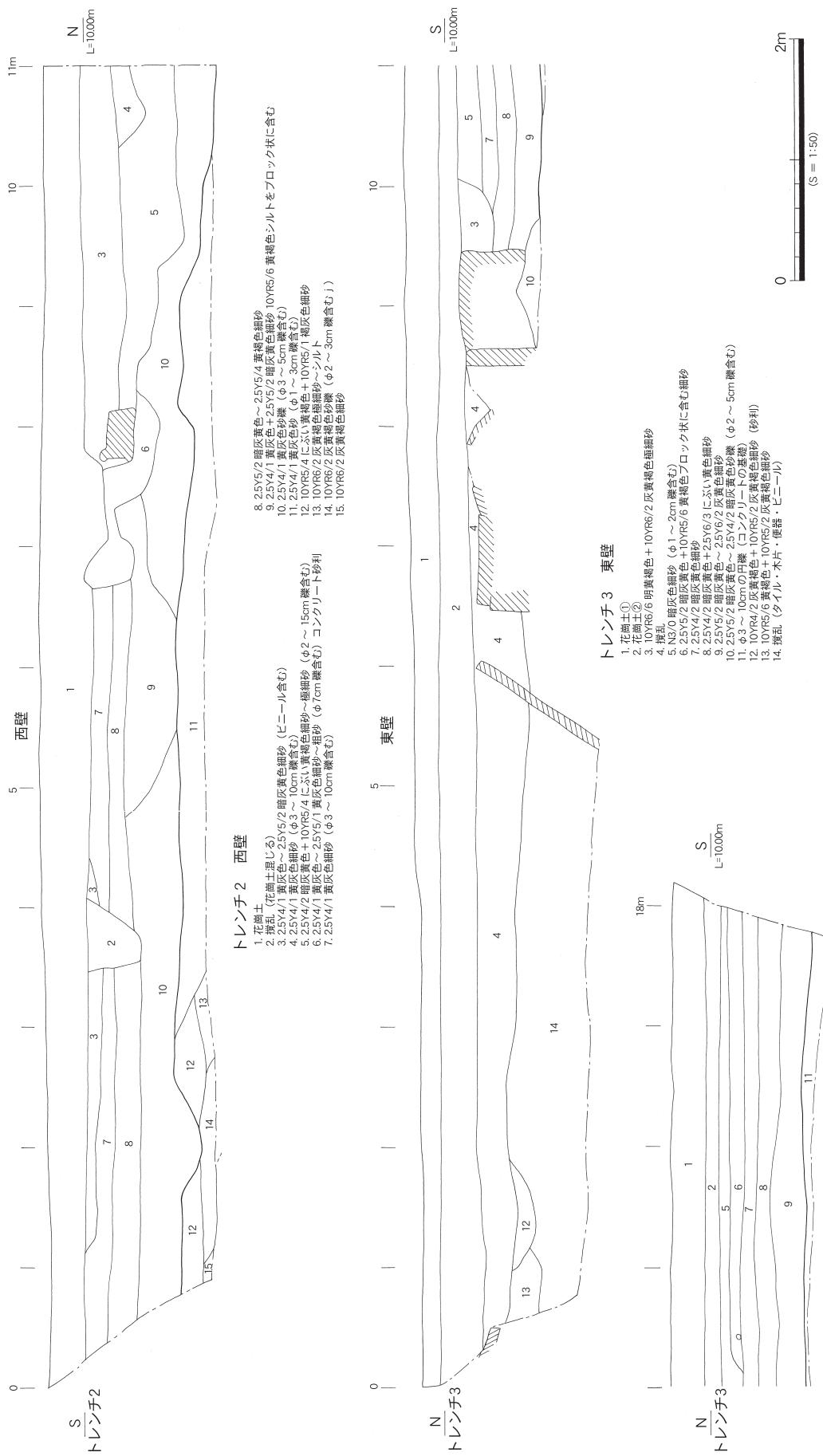
### 【トレンチ 1】

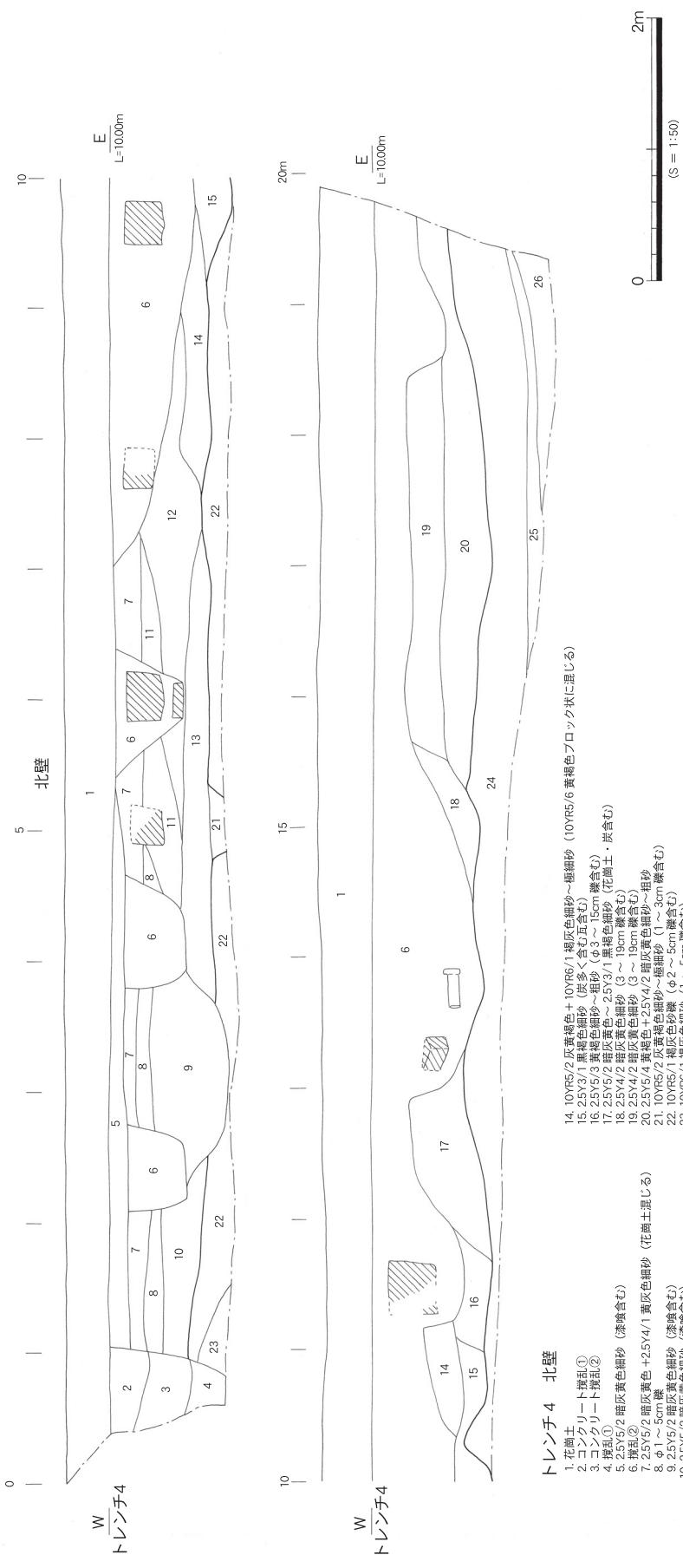
調査地西端から東に向かって幅 1.5m、長さ約 18m のトレンチを設定した。トレンチ中央部に土坑を確認したが、漆喰などが出土している。西端、東端は搅乱を確認している。

### 【2 トレンチ】

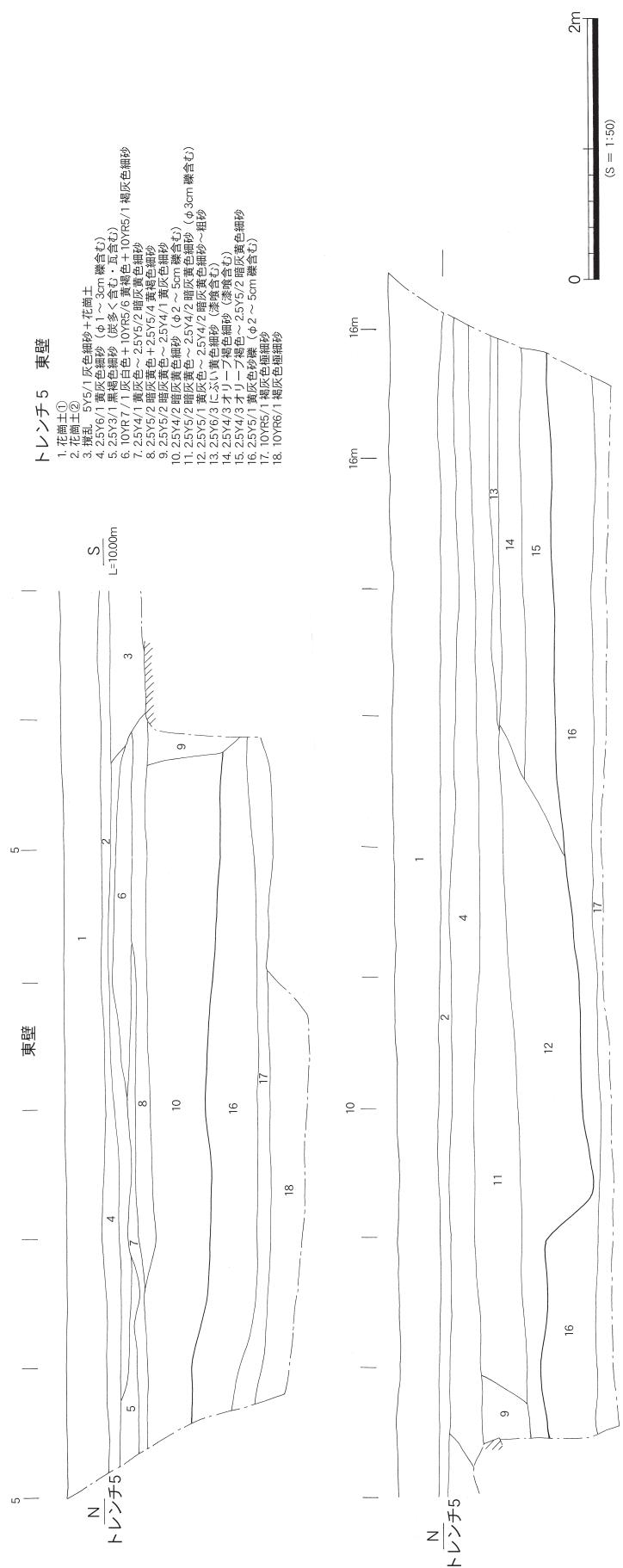
調査地南西隅に位置し、幅約 1.5m、長さ約 12.5m のトレンチを南北方向に設定した。近代搅乱や旧校舎整地層などにより、明確な遺構は検出されなかった。



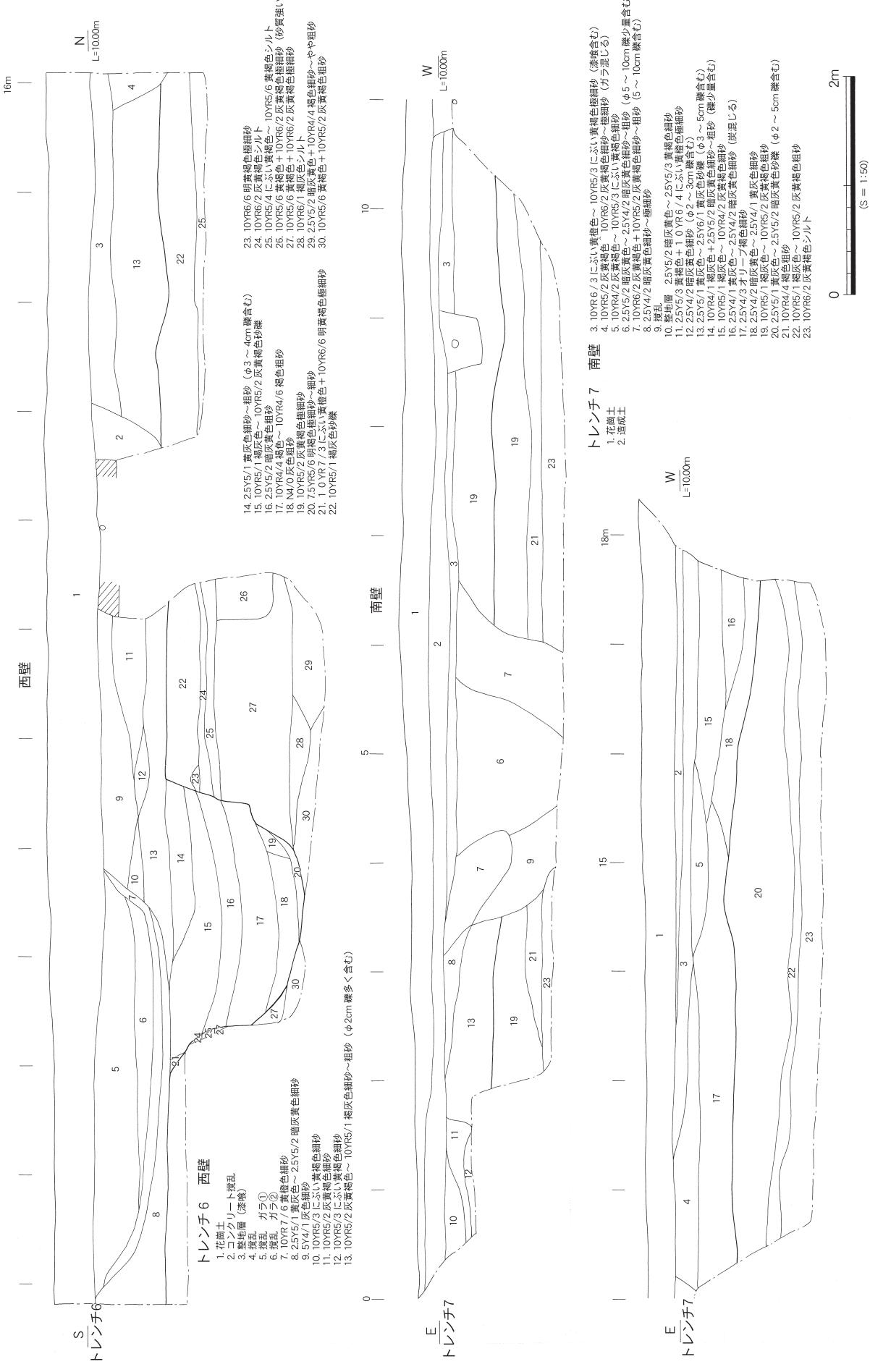




第20図 トレンチ4 断面図



第21図 トレンチ5 断面図



第22図 トレンチ6・7 断面図

### 【トレンチ 3】

トレンチ 2 の北側に位置し、幅約 1.5m、長さ約 15.3m のトレンチを南北方向に設定した。2 トレンチと同じく近代搅乱や旧校舎整地層などから、明確な遺構は検出されなかつた。

### 【トレンチ 4】

トレンチ 1 の東側に位置し、幅約 1.5m、長さ約 19.7m のトレンチを東西方向に設定した。旧校舎の整地や基礎の跡からコンクリート片が多量に出土し、深さ約 70cm まで壊されており、近世における遺構や遺物は検出できなかつた。

### 【トレンチ 5】

トレンチ 3 の東側に位置し、幅約 1.5m、長さ約 16.5m のトレンチを東西方向に設定した。トレンチ中央に近代以降の水路跡を確認し、その南側において廃棄土坑を検出した。この廃棄土坑からは、多量の土師質土器、陶磁器、瓦が出土した。コンテナ 10 箱分である。ほぼ幕末頃のものと考えられる。

### 【トレンチ 6】

トレンチ 5 の南側に位置し、幅約 1.5m、長さ約 12.8m のトレンチを南北方向に設定した。トレンチ中央には、旧校舎の基礎が残り、北端では現代の搅乱を確認した。廃棄土坑も検出でき、トレンチ 5 を同様の遺物を多く含んでいる。

### 【トレンチ 7】

東端に位置し、幅約 1.5m、長さ約 18.3m のトレンチを東西方向に設定した。丸亀藩士井上氏の武家屋敷地に最も近く、それに伴う遺構の確認が期待されたが、整地層や廃棄土坑を検出し、京極氏最盛期の遺物などは確認できなかつた。

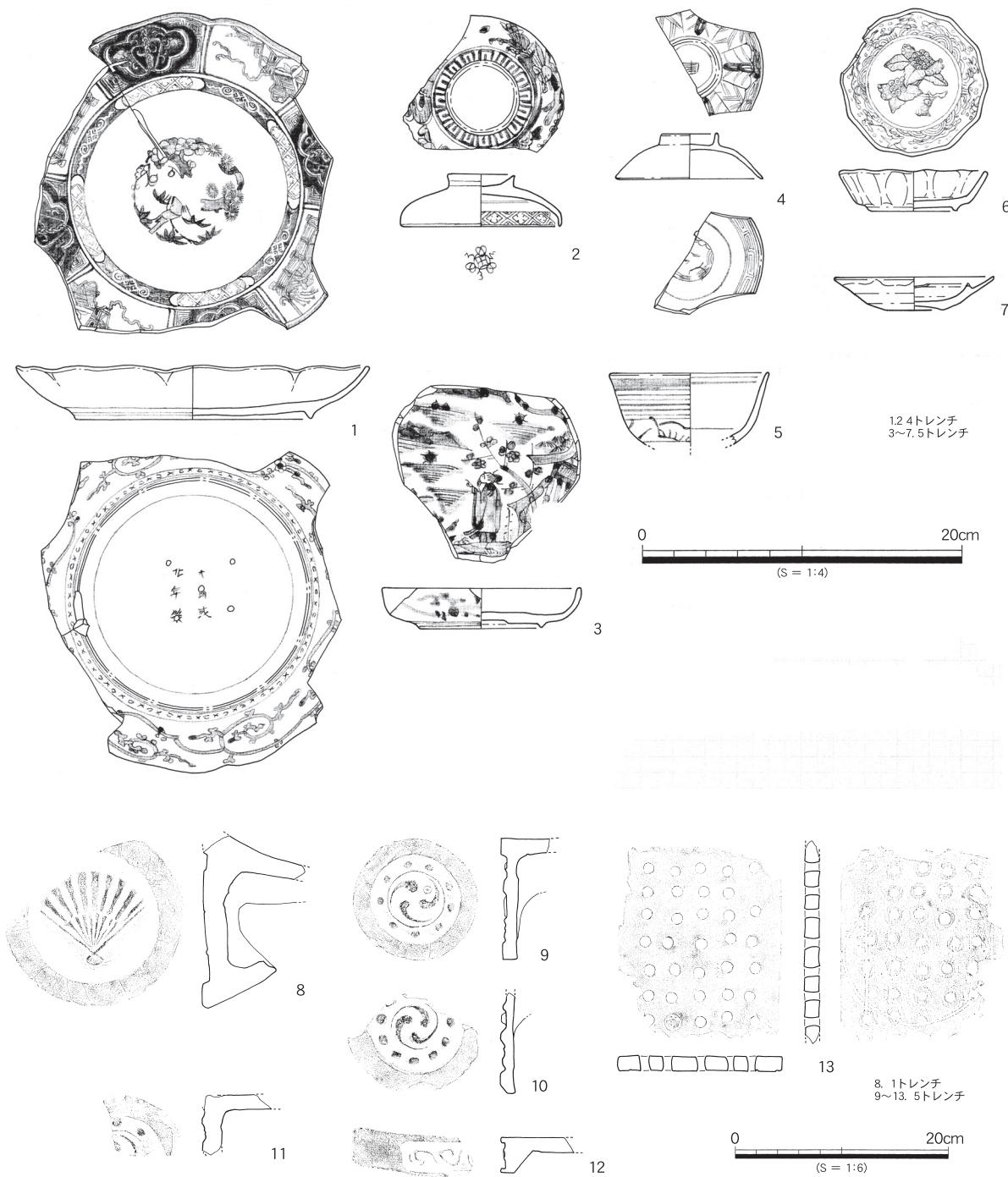
## 4. 出土遺物

1 は、磁器の皿で 18 世紀第四半紀頃のものである。2 は、磁器の蓋である。19 世紀のものである。3 は、磁器の皿で蛇の目高台である。4 は、磁器の蓋である。5 は、磁器の碗である。6 は、白磁の皿で型押し成形されている。7 は、陶器の灯明皿である。8 は、山崎家家紋である扇文のある鳥食である。9~11 は、巴文軒丸瓦の瓦当部分である。9 は、巴文が小さく連珠が 12 個あるものと推定される。10 の巴文は短く、接続せずに外側に圏線がある。連珠は 9 個ある。また、巴文の間に円形の文様を施すのが特徴である。11 は、巴文は長い。12 は、唐草文軒平瓦でありつるは上から下へと 2 転する。13 は、瓦質製品である。約 8 mm の穴が整列して配され、水切りの役目をもつものと思われるが、器種は不明である。「宇」の印刻がある。

## 5. まとめ

調査地全体において、近現代の搅乱が多く見られ、旧校舎などの整地層や基礎搅乱により京極最盛期の遺構や整地層は確認できなかった。丸亀藩士の武家屋敷地跡に関しても、有力な遺構の確認はできなかった。

以上のことから、埋蔵文化財保護措置は不要と判断し、トレンチを埋め戻し原状に復した。



第23図 出土遺物実測図

第3表 六番丁地区 遺物調査表

No.	出土地区	種類	器種	法量(cm)			胎土	色調			調整	焼成	残存率	備考
				口径	器高	底径		釉	與須・上繪					
1	トレンチ4	磁器	色絵皿	22.0	3.3	14.8	胎土	透明	暗青・赤・金色			底8/8	肥前3c・第四半期 須	
2	トレンチ4	磁器	蓋	10.0	3.2	4.2	胎土	透明	暗青色			端8/8	肥前9c	
3	トレンチ5	磁器	皿	12.1	2.5	7.8	胎土	透明	暗青色			底8/8	肥前8c後～9c前	
4	トレンチ6	磁器	蓋	9.2	2.8	3.6	胎土	透明	暗青色			端4/8	肥前9c後半	
5	トレンチ7	磁器	碗	(3.8)	-	-	胎土	透明	7.5YR8/1灰白色			口2/8	肥前9c後半	
6	トレンチ8	白磁	皿	9.0	2.5	5.0	胎土	淡青灰白色	7.5YR8/2灰白色			底8/8	肥前	
7	トレンチ9	陶器	灯明皿	(3.9)	2.0	(3.6)	胎土	7.5YR8/1明褐色			口2/8	端前18c 表面上月刻がある 裏面縫隙がある		
13	トレンチ5	瓦質	不明	(18.0)	15.2	(1.4)	胎土	N8/灰白色	N3/暗灰色	約8mmの穴が整列して配されている		良		
No.	出土地区	種類	計(幅)	瓦当面(cm)	内区	外区	厚さ	胎土	表面	色調	丸瓦部分の調整	焼成	文様構成	備考
8	トレンチ1	鳥糞	16.8	12.2	2.2	2.2	2.2	胎土	表面	内面	内面		山崎の家紋	
9	トレンチ5	軒丸瓦	11.3~11.8	8.5	1.4~1.6	1.4	1.4	セラミック(φ1mm以下石粒少々含む)	7.5YR8/1灰白色	N4/灰色		良	連文・9個 巴文：外側に接続している 3条	
10	トレンチ5	軒丸瓦	12.4	8.8	1.8	1.3	1.3	セラミック(φ1~2mm石粒、石英含む)	7.5YR8/1灰白色	N3/暗灰色		良	連珠文・現存12個 巴文：外側に接続される 3条	
11	トレンチ5	軒丸瓦			1.9	1.9	1.9	セラミック(φ1mm以下石粒含む)	7.5YR8/1灰白色	N6/~N4/灰色	焼成方向への矯正痕	良	連珠文・現存2個 巴文：外側に接続される 2条	
12	トレンチ5	軒平瓦	計(幅)	3.6	2.4	5	1.3	セラミック(φ1mm以下石粒含む)	7.5YR8/1灰白色	N6/~N4/灰色		良	唐草文 つるは上から下へと 2枚する	

第4表 山北町池田地区 遺物観察表

No.	出土トレンチ名・遺構名	種類	器種	法量(cm)			胎土	色調			調整	焼成	残存率	備考
				口径	器高	底径		外面	内面	外面				
1	2トレンチ	瓦	平瓦	長6.5	幅4.9	厚1.8	胎土	N6/0灰色	N6/0灰色	繩目叩き(ケズリ)	布目痕(細かい)	堅微	小片	須惠質
2	2トレンチ	瓦	平瓦	長9.7	幅10.3	厚2.5	胎土	N6/0灰色	N6/0灰色	繩目叩きや細かい	布目痕(細かい)	堅微	小片	須惠質
3	2トレンチ	瓦	坏	-	-	(8.2)	胎土	2.5YR8/3淡黄色	2.5YR8/3淡黄色	回転ナデ	唇部の土かづ明	良好	底2/8	
4	3トレンチ	土師器	土師質土器	(27.6)	-	-	胎土	2.5YR7/7淡黄色	2.5YR7/7淡黄色	回転ナデ	唇部の土かづ明	良好	口1/3	
5	3トレンチ	須恵器	土師質土器	(15.8)	2.0	(13.6)	胎土	N3/0灰白色	N3/0灰白色	回転ナデ	唇部の土かづ明	軟質	口1/3	
6	3トレンチ	須恵器	杯	-	-	(9.3)	胎土	N3/0灰白色	N3/0灰白色	回転ナデ	唇部の土かづ明	軟質	底1/3	
7	3トレンチ	土師質土器	壺	(23.8)	-	-	胎土	7.5YR7/4にぶい暗色	7.5YR7/4にぶい暗色	回転ナデ	唇部の土かづ明	良好	口2/3	
8	4トレンチ	須恵器	壺	捕(2.7)	-	-	胎土	N6/0灰白色	N6/0灰白色	回転ナデ・擦打	唇部の土かづ明	堅微	擦2/8	
9	5トレンチ	須恵器	壺	(34.4)	-	-	胎土	N6/0灰白色	N6/0灰白色	回転ナデ	唇部の土かづ明	堅微	口1/3	

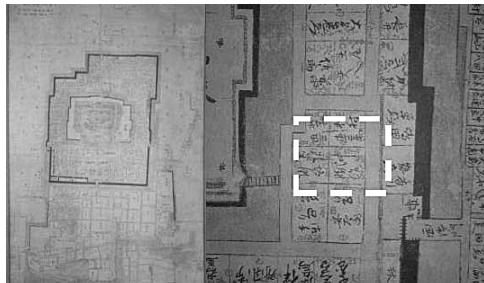
第5表 田村発達 遺物観察表

No.	出土トレンチ名・遺構名	種類	器種	法量(cm)			胎土	色調			調整	焼成	残存率	備考
				口径	器高	底径		外面	内面	外面				
1	確認調査区イコウ04	瓦	平瓦	長10.3	幅10.2	厚2.1	胎土	3PB8/1青灰色	2.5YR8/1灰白色	格子叩き(6~8mm方格)	布目痕(細かい)	堅微	小片	須惠質
2	確認調査区イコウ05	瓦	平瓦	長7.5	幅4.7	厚2.5	胎土	10YR8/3浅黃色	10YR8/3浅黃色	繩目叩き(やや細かい)	布目痕(やや細かい)	良好	小片	軟質
3	確認調査区イコウ05	瓦	平瓦	長13.3	幅8.9	厚2.1	胎土	N7/0灰白色	N7/0灰白色	格子叩きのち板ナデ	布目痕(細かい)のち板ナデ	堅微	小片	須惠質

第3表 出土遺物観察表（土器）

第4表 出土遺物観察表（瓦器）

第5表 出土遺物観察表（瓦質土製品）



丸亀城郭及び城下町古地図（1802  
京極時代）三田玄竹、堀瀬順榮、杉村  
直兵衛、沖勝治屋敷



1953年 旧小学校：北西より



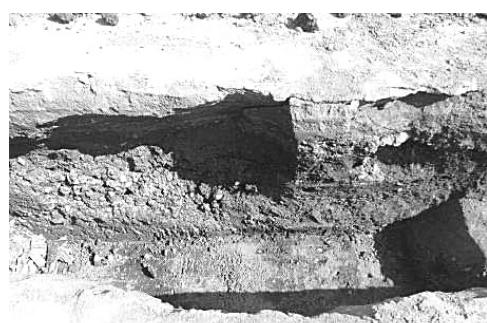
トレンチ 1 重機掘削風景：西より



トレンチ 4 人力掘削風景：西より



トレンチ 1 全景：北東より



トレンチ 2 廃棄土坑：北より



トレンチ 2 全景：北東より



トレンチ 2 西壁土層序：東より

図版16 六番丁地区試掘調査(1)



トレンチ 3 全景：北西より



トレンチ 3 旧校舎水路：南西より



トレンチ 4 全景：南東より



トレンチ 4 東端部基盤シルト層（床面）：北より



トレンチ 5 全景：北西より



トレンチ 5 東壁土層序：西より



トレンチ 5 旧校舎水路：東より



トレンチ 5 廃棄土坑（東壁側）：北より

図版17 六番丁地区試掘調査(2)



トレンチ 8 全景：南東より



トレンチ 6 溝状遺構検出：東より



トレンチ 6 溝状遺構埋土：北より



トレンチ 7 南壁土層序：北より



トレンチ 7 全景：北東より



トレンチ 7 南壁土層序：北より



トレンチ 7 花崗岩製板石確認状況：北より

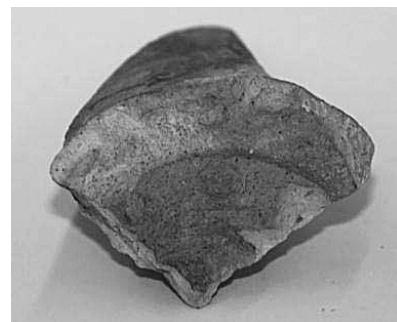
図版18 六番丁地区試掘調査(3)



図版19 六番丁地区試掘調査(4)



10表



11裏



12表



12



13表



13表の銘



13裏

図版20 六番丁地区試掘調査(5)

# **山北町字池田地区**

## 第VI章 山北町字池田地区試掘調査

調査対象地 丸亀市山北町字池田 282 番 1  
 調査期間 平成 24 年 9 月 4 日～9 月 5 日  
 調査面積 約 47.7 m<sup>2</sup> (調査対象地面積 約 1,776 m<sup>2</sup>)

### 1. 立地と環境

対象地は、丸亀平野の北西部に位置し、土器川の左岸域に存在する。

調査対象地の東 100m では、以前から『田村城跡（城跡：中世）』の堀跡とされる「蓮堀」が昭和初期まで確認されている。これを平地城館の東南隅とし、一丁四方の範囲とすると、今回の対象地が北西隅に位置する。

### 2. 調査に至る経緯と調査の経過

宅地分譲建設設計画に伴い、平成 24 年 7 月 30 日付けで埋蔵文化財の所在及びその取扱いについての照会文書が提出された。対象地は、田村城跡の範囲に位置するものと推定され、堀跡が検出される可能性が非常に高いと考えられたため、事前に遺跡所在の有無を確認しておくことが適当であると判断されたことから試掘調査を実施することとした。

### 3. 調査の概要

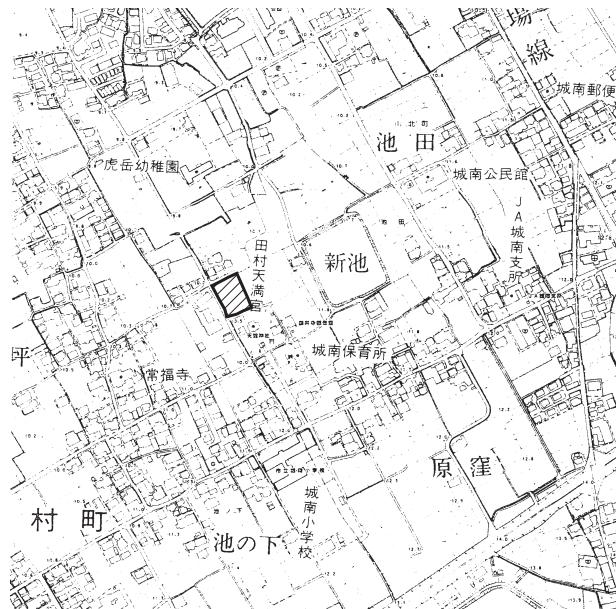
調査は、トレンチ調査とし、対象地内に 5 箇所のトレンチを設定した。大まかな掘削は重機で行い、その後人力により掘削・精査を行った。

#### 【1 トレンチ】

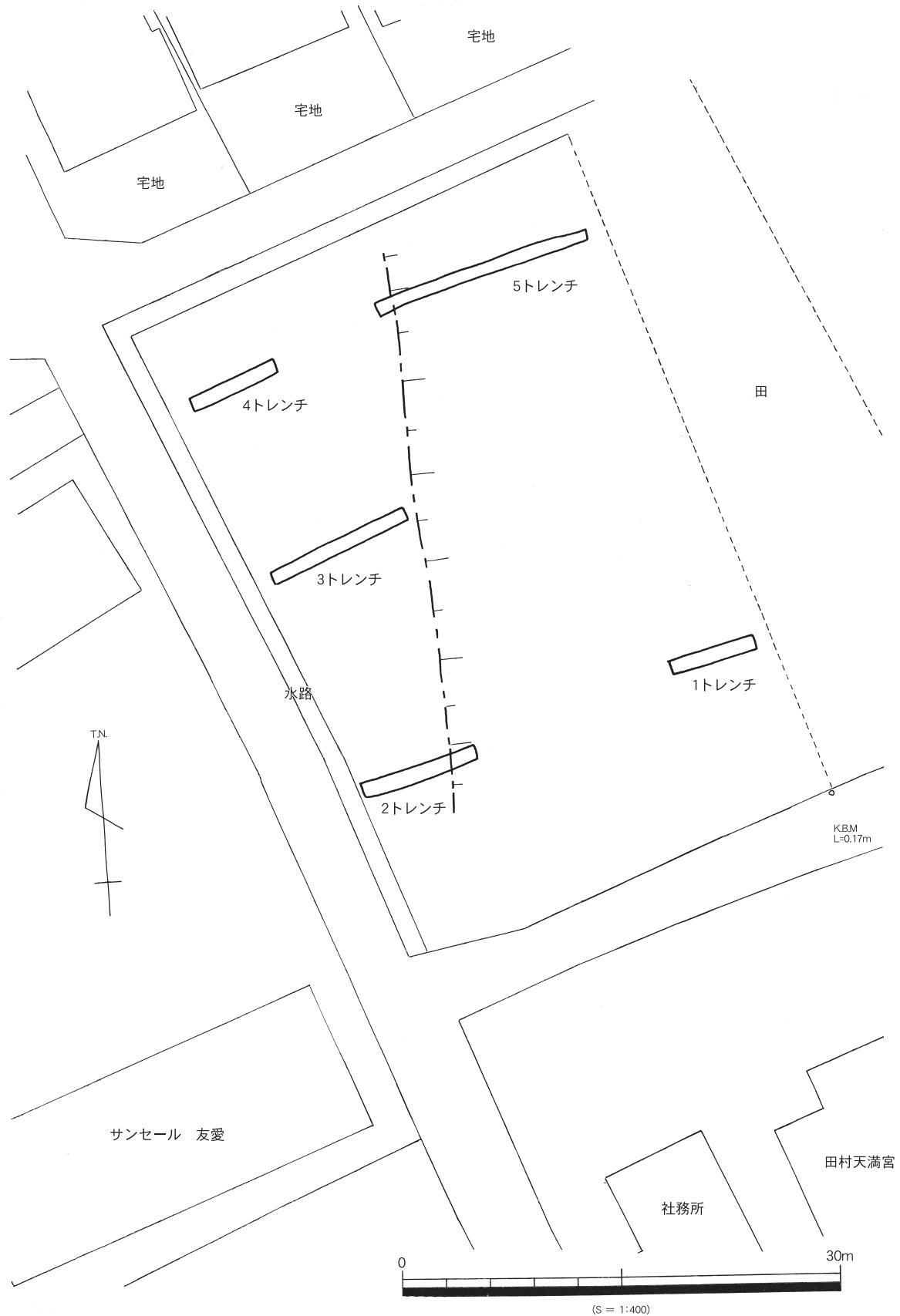
調査地南東隅に、長さ約 6.5m、幅約 1.0m のトレンチを東西方向に設定した。耕作土を取り除き、黄灰色細砂層を 10cm ほど掘削すると粗砂と礫が多量に見られ、瞬く間に水が湧き出し水没した。図面作成、写真撮影を行いすぐに埋め戻した。

#### 【2 トレンチ】

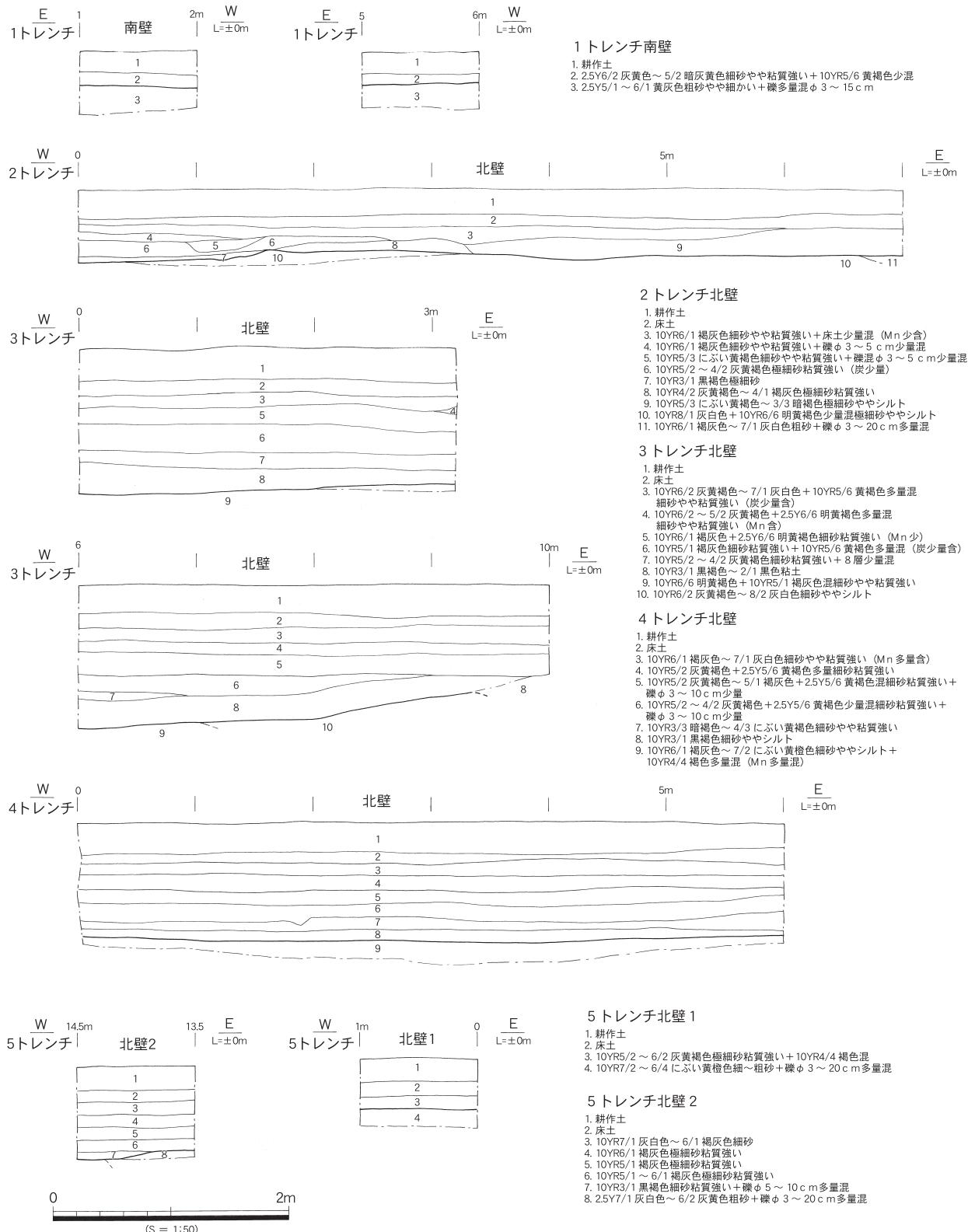
1 トレンチの西側に長さ約 8.8m、幅約 1.0m のトレンチを東西方向に設定した。耕



第24図 対象地位置図



第25図 トレンチ配置図



第26図 1～5トレンチ 断面図

作土、床土を取り除くと褐灰色でやや安定した粘質細砂系の層が見られ、須恵器片、土師器坏(3)、凸面に縄目タタキの痕跡が見られる須恵質の平瓦(1,2)が出土した。その下の層は褐灰色で礫を多く含んでいるが、須恵器、土師器などが出土しており、古代のものと考えられる。トレンチ西側の地山は礫を含まない砂質系で安定しているが、遺構の検出はできなかった。トレンチ西端から東に向かって 6.6m のあたりで、1 トレンチと同様の粗砂と多量の礫が見られ、水が湧き出てきたので、この部分だけ埋め戻した。

#### 【3 トレンチ】

2 トレンチの北側に、長さ約 10.5m、幅約 1.0m のトレンチを東西方向に設定した。耕作土、床土を取り除くと、褐灰色細砂、黒褐色粘質土の層が比較的きれいに水平堆積している。褐灰色層からは、須恵器片、土師質土器の土鍋(4)が出土し、黒褐色層からも須恵器皿(5)、須恵器坏(6)、土師器甕の口縁(7)が出土しており、古墳時代から古代にかけてのものと考えられる。地山は、明黄褐色細砂で比較的安定しているが、遺構の検出はできなかった。

#### 【4 トレンチ】

調査地北側の西端に位置し、3 トレンチの北側に長さ約 6.5m、幅約 1.0m のトレンチを東西方向に設定した。土壤堆積状況は3 トレンチと同様であるが、下層の黒褐色粘質土層は細砂質に変わり土器の包含も見られなかった。中間層の褐灰色層からは、須恵器の杯蓋、土師質土器が出土している。須恵器の杯蓋(8)は摘みを有しており、古代のものと考えられる。遺構の検出はできなかった。

#### 【5 トレンチ】

4 トレンチ東側に、長さ約 15.5m、幅約 1.0m のトレンチを東西方向に設定した。東側は、1 トレンチと同様の粗砂に多量の礫が見られ、水が湧き出てきた。トレンチ西端から 1.5m あたりで礫層が無くなる境目を確認した。礫層の上に堆積するにぶい黄褐色層から須恵器の甕(9)、土師質土器、陶器が出土したが少量で、遺構の検出もできなかった。

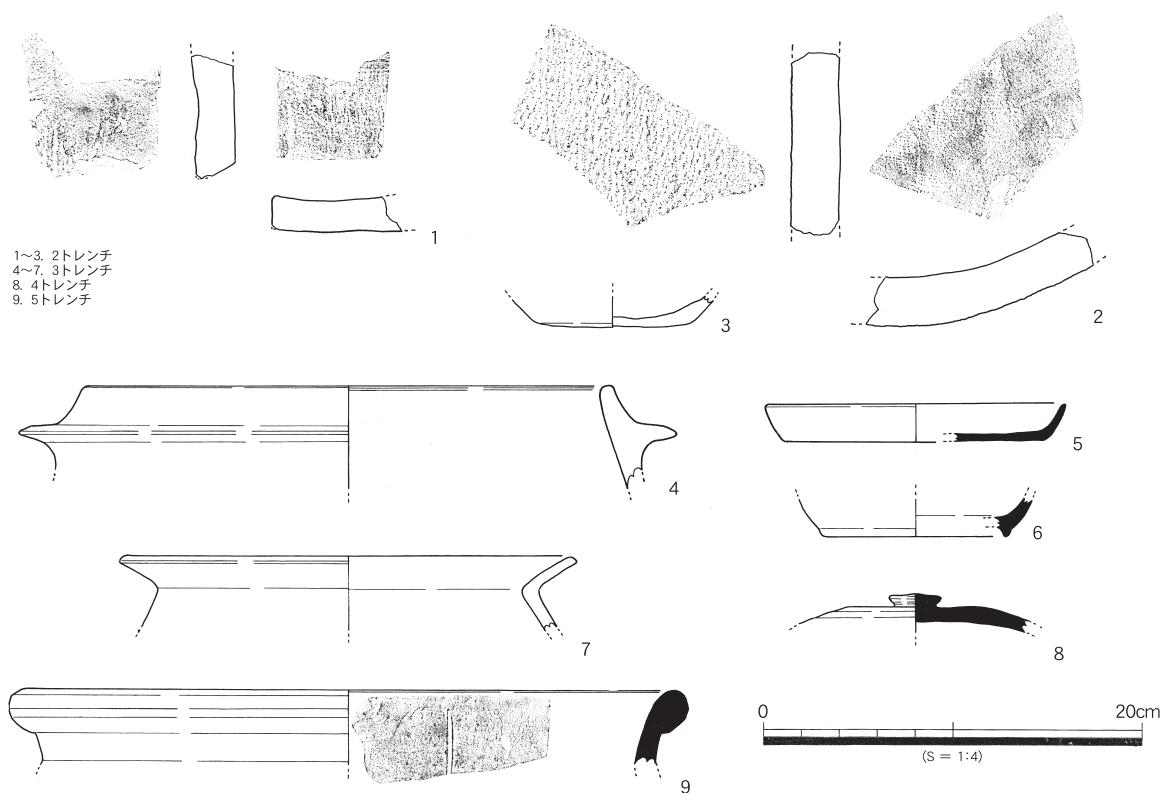
#### 4. まとめ

調査地は、平坦で安定した土地に位置しているが、東側2/3が粗砂と多量の礫層であり遺構の確認はできなかった。今回の調査で出土した遺物の年代も、田村城跡のものより古いもので、堀跡が確認できるのはさらに東側の方向であることが推測できる。

西側は比較的安定した土壤堆積状況で、包含層には古墳時代から古代の遺物も認められるが、北に向かうにつれ希薄になっている。遺跡が広がる可能性があるとするならば南西方向に広がるものと考えられる。

上記の内容から、対象地についての埋蔵文化財の包蔵状況記録は、今回の調査により完了し、今後の保護措置は不要とした。

記録後、調査トレンチは埋め戻し原状に復した。



第27図 出土遺物実測図

第6表 山北町字池田地区 出土遺物観察表

No.	出土レンチ名・遺構名	種類	器種	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	残存率	備考
				口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面			
1	2レンチ	瓦	平瓦	長6.5	幅4.9	厚1.8	微 長石、石英少量含む	N6/0灰色		繩目叩きのちケズリ	布目灰(細かい)	堅綴	小片	須恵質
2	2レンチ	瓦	平瓦	長9.7	幅10.3	厚2.5	細 長石、石英少量含む	N6/0灰色		繩目叩きやや細かい	布目灰(細かい)	堅綴	小片	須恵質
3	2レンチ	土師器	壺	—	—	(8.2)	細 長石、石英少量、微赤色粒子普通 金心	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色	回転ナデ	回転ナデ	良好	底2/8	
4	3レンチ	土師質土器	土鍋	(27.6)	—	—	微 長石、石英少量含む	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/4浅黄色	磨滅のため不明	磨滅のため不明	良好	口1/8	
5	3レンチ	須恵器	皿	(15.8)	2.0	(13.6)	中 長石、石英少量含む	N8/0灰白色	N8/0灰白色	磨滅のため不明	磨滅のため不明	軟質	口1/8	
6	3レンチ	須恵器	壺	—	—	(9.8)	微 黒色粒子わずかに含む	N8/0灰白色	N8/0灰白色	磨滅のため不明	磨滅のため不明	軟質	底1/8	
7	3レンチ	土師質土器	甌	(23.8)	—	—	細 長石、石英少量含む	7.5YR7/4にぶい紫色	7.5YR7/4にぶい紫色	磨滅のため不明	磨滅のため不明	良好	口2/8	
8	4レンチ	須恵器	壺蓋	摘(2.7)	—	—	微 長石、石英少量含む	N8/0灰白色	N8/0灰白色	回転ナデ・擦み部ナデ	回転ナデ・擦み部ナデ	堅綴	摘2/8	
9	5レンチ	須恵器	甌	(34.4)	—	—	微 長石、石英わずかに含む	N6/0灰色	5YR5/2灰褐色	回転ナデ	回転ナデ	堅綴	口1/8	

第6表 出土遺物観察表



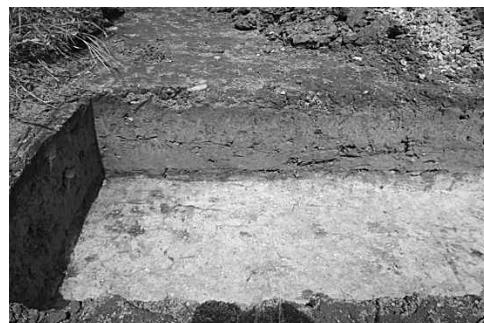
重機掘削作業風景



1 トレンチ 南壁：北より



1 トレンチ全景：西より



2 トレンチ北壁：南より



2 トレンチ北壁：南より



2 トレンチ全景：西より



3 トレンチ北壁：南より



3 トレンチ全景：西より

図版21 山北町字池田地区試掘調査(1)



4 トレンチ北壁：南より



4 トレンチ全景：東より



5 トレンチ北壁：南より



5 トレンチ礫層の境目：南より



5 トレンチ全景：西より



図版22 山北町字池田地区試掘調査(2)

# **郡家町字領家地区**

## 第VII章 郡家町字領家地区試掘調査

調査対象地 丸亀市郡家町字領家 1981-1、1999-1、2000、2002 番

調査期間 平成 24 年 10 月 24 日～10 月 26 日

調査面積 約 166.5 m<sup>2</sup> (調査対象地面積 約 4705.18 m<sup>2</sup>)

### 1. 立地と環境

対象地は、丸亀平野中央部よりやや南よりに位置し、南に古代寺院の存在が知られている宝幢寺下池がある。

調査地は、東に『郡家領家遺跡(古墳時代：包蔵地)』、西側には『宮池遺跡(古代：包蔵地)』などが以前から埋蔵文化財包蔵地として知られている。

郡家という地名からもこの地域には郡衙の存在が推定されている。



第28図 対象地位置図

### 2. 調査に至る経緯と調査の経過

宅地分譲建設計画に伴い、平成 24 年 9 月 6 日付で埋蔵文化財の所在及びその取扱いについての照会文書が提出された。

対象地は上記の遺跡と隣接し、1,000 m<sup>2</sup>を超える開発工事が計画されていることから、事前に遺跡所在の有無を確認しておくことが適当であると判断されたことから試掘調査を実施することとした。

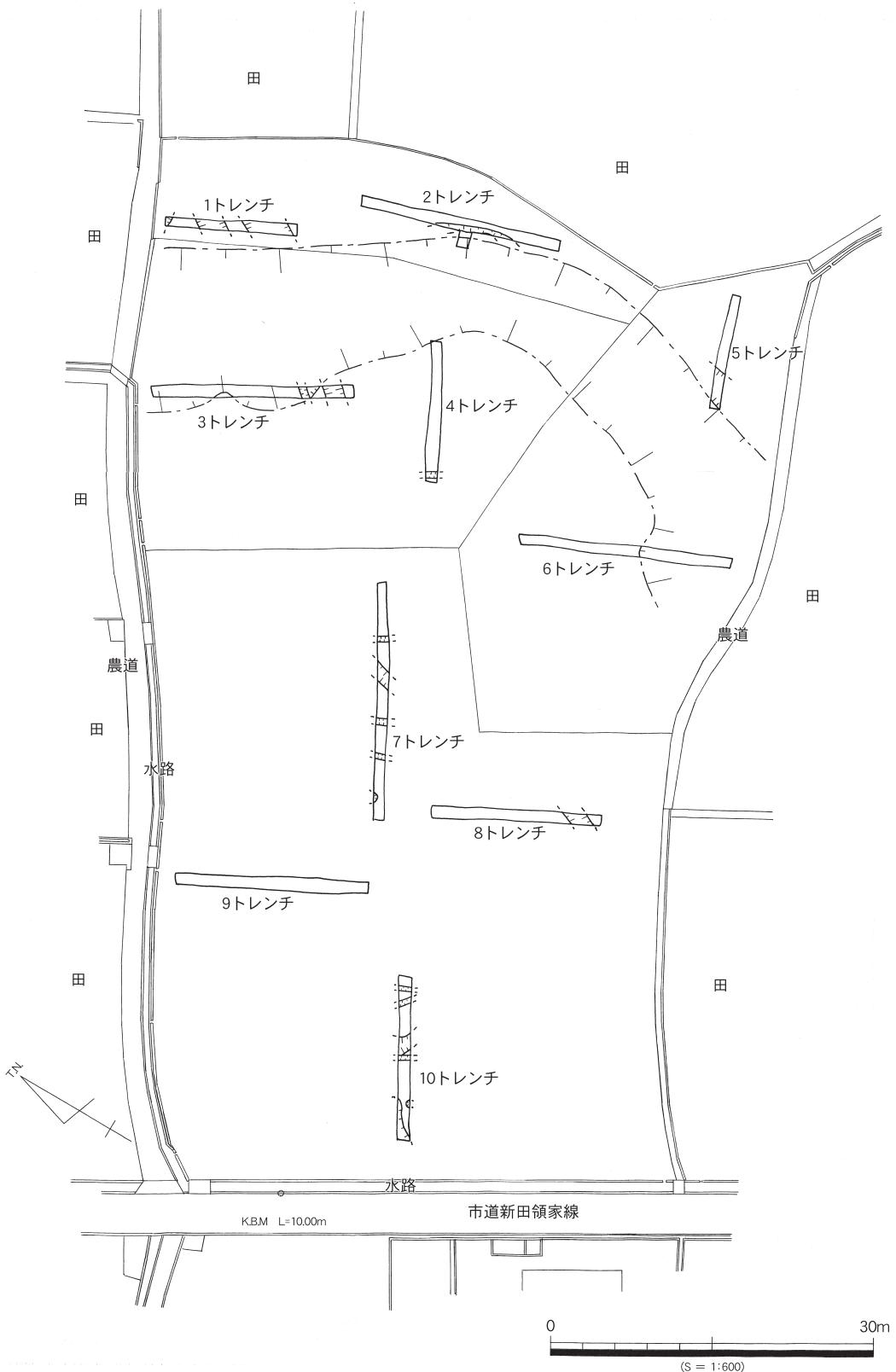
調査は、トレンチ調査とし、対象地内にトレンチを 10 箇所設定した。大まかな掘削は重機で行い、その後人力により掘削・精査を行った。

### 3. 調査の概要

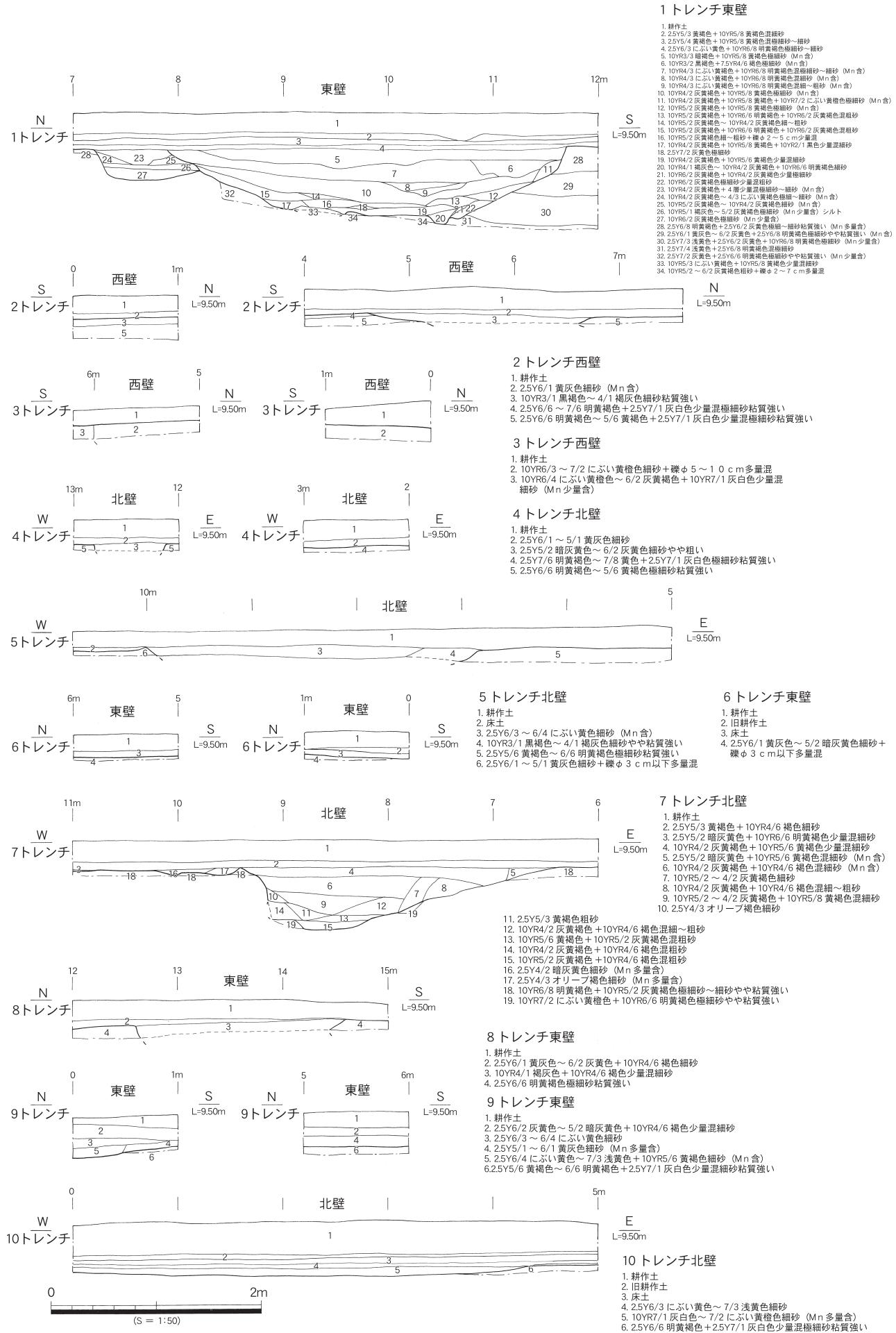
調査は、調査地東側から開始した。調査地内の基本層序としては、最上層から耕作土、床土、黄褐色粘質土(地山)であることが判明した。包含層は見られず、遺物の出土などは全く見られなかった。

調査地東側北端において溝状遺構を 2 条検出した。埋土は黒褐色粘質土であるがやや砂質が強く、かなり固く締まっていた。遺物の出土は無く時代については不明であ

る。この溝状遺構は南西方向に延長していることが確認できた。南西から北東方向に流れるやや大型の流路跡がこの地域に存在していたものと推測できる。



第29図 トレンチ 配置図



第30図 1~10トレンチ 断面図

調査地中央部においても、幅 30cm～1m を測る溝状遺構が数基検出できた。出土遺物は無く、時代については不明であるが、この流路に分岐する小流路が存在しているものと考えられる。

調査地東側において、一部地山が砂礫層となり水が多く湧き出す地域を確認できた。第 29 図においてもわかるように、幅約 15m 前後で北から地形に沿って湾曲しながら南西方向に流れる旧河道を確認した。

このように、流路跡、旧河道の存在が確認でき、出土遺物がなく詳細な時代についても不明であり、遺跡の存在する可能性は低いものと考えられる。

#### 4.まとめ

調査地は、全体的に安定した地山が広がっているが、耕作土直下で溝状遺構が検出でき、遺物の包含も無く詳細な時代については不明である。後世の堆積作用も認められないことから広範囲において削平が行われたものと考えられる。旧河道、流路跡の存在を確認したが、出土遺物もなく遺跡の存在する可能性は低いものと考えられる。

上記の内容から、対象地についての埋蔵文化財の包蔵状況記録は、今回の調査により完了し、今後の保護措置は不要とした。

記録後、調査トレンチは埋め戻し原状に復した。



調査前風景：南西より



重機掘削風景：北西より



人力掘削作業風景：西より



1トレンチSD01完掘状況：西より



1トレンチSD02完掘状況：北西より



1トレンチ全景：南より



2トレンチSD01検出状況：南東より



2トレンチ全景：南より

図版23 郡家町字領家地区試掘調査(1)



3 トレンチSD01・02検出状況：東より



3 トレンチ全景：南より



4 トレンチ全景：西より



5 トレンチSD01検出状況：西より



5 トレンチ全景：西より



6 トレンチ全景：北より



7 トレンチSD01検出状況：東より

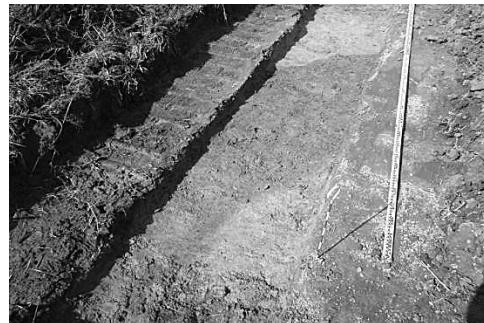


7 トレンチSD01完掘状況：東より

図版24 郡家町字領家地区試掘調査(2)



7 トレンチ全景：東より



8 トレンチSD01検出状況：南より



8 トレンチ全景：北より



9 トレンチ全景：北より



10 トレンチSD01・02検出状況：北東より



10 トレンチSD03・04検出状況：西より



10 トレンチ全景：東より

図版25 郡家町字領家地区試掘調査(3)